

中村メイコさん講演会



両手を広げて中村さんが登場すると、会場は一気に華やかな雰囲気になった

断捨離でシンプルな生活 チャームポイントを持って老いる

女優の中村メイコさんが、仙台市内で開かれた「2015いきいきシニア夏まつり」で「私の生き方」と題して講演。「杜の都」を思わせるグリーンの装いの中村さんが両手を広げて颯爽(さっそう)と登場すると、会場は大きな拍手と歓声に包まれた。理想の年の重ね方、身の回りの整理術などユーモアを交えながら語り、会場を沸かせた。(1面に関連記事)

昔は高いピンヒールを履いていましたが、このごろはほとんどべたんこ靴。子どもたちに「ひやひやするから、ヒールのない靴にして」と言われたものです。でもね、いつまでも夢のある格好をしたい。べたんこ靴でもかわいらしく思っています。きょうはお花が付いたものを履いてきました。

夫婦で同じ寝室

20歳で婚約し、23歳で結婚。結婚と同時に仕事は辞めるつもりでした。私が2歳で映画デビューしたことを知る若き日の(夫の)神津(善行)さんが「おむつしながら仕事をしていた人なんて珍しいんだから、その歴史は大事にして仕事を続けなよ。これからの女性は仕事を頑張って生きてるだろうから」と言うものですか。3人の子どもがいて、子育て中は忙しくて3時間以上寝た記憶はありません。

片付けて終活

最近好きな言葉は「老いの力」。老いていることに力はありません。私にとって、老いの力は片付け。一軒家からマンションに引っ越す時、大きいトラック7台分の持ち物を捨てました。特に多かったのは写真。着物も捨てました。私はのんびりで、ワインやウイスキーがたふさんあって、知り合いのマスターに引き取ってもらいました。半世紀以上一緒に過ごしたお人形さん

背筋を伸ばして立ち、約1時間半トークを繰り広げた



津さんに愛想笑いをしたんです。そうしたら「なんだ気持ち悪い」って神津さん。「夕飯の時くらいしか顔を合わせないんだから、お話ししましょうよ」って言ったたら、神津さんは「話すことがないのは、問題がないってことだ。君は外でしゃべり疲れているんだから、もう(話さなくて)いいだろう」って。きょうもそう言われると思います。

夫婦だけになつてから寝室は一緒。どちらも80歳を過ぎて、気が付かないうちに一方が死んでいた嫌でしょ。死なないまでも、具合が悪そうなら気が付けるように。それが夫婦の、せめてものエチケットだと思っています。

片付けが終わったら、本当にほっとしました。今までの生活には、こんなにも無駄があったのか。少しの道具や服ですーっと生活していきけるじゃない。まあ「すーっと」といっても、先は短いですけどね。

3分の1ぐらいになった服は、色ごとにクロロゼットに提げています。でも、そんなに時代遅れの格好はできないので、新しい服が必要と思ったら、「あそこを減らして、あそこに入れる」と隙間を考えてから買う。靴もかばんも。そうすると、

物は増えませんが、今は「捨て屋のメイコさん」って言われます。神津善行さんだけは捨てないようにはしないと(笑)。

笑いを身近に

この前ある新聞社の方に「今はどんな役がやりたいですか」と聞かれました。年を重ねた人を扱う日本の映画って、悲しげなものが多いでしょ。私はね、年を取ったあんみつ姫をやりたい。白髪頭を結って、花かんざしをいっぱい付けて演じたら楽しかろうなって。ふざけたものではなく、いまだに自分は姫だと思っ生きています。それが「ほける」ということなら、周りの人も楽しく受け止めて、年を取ったあんみつ姫と付き合えばいいじゃない。その根本が台本にしっかりと書かれていれば面白いと思います。



講演後、観客から花束を受け取る中村さん